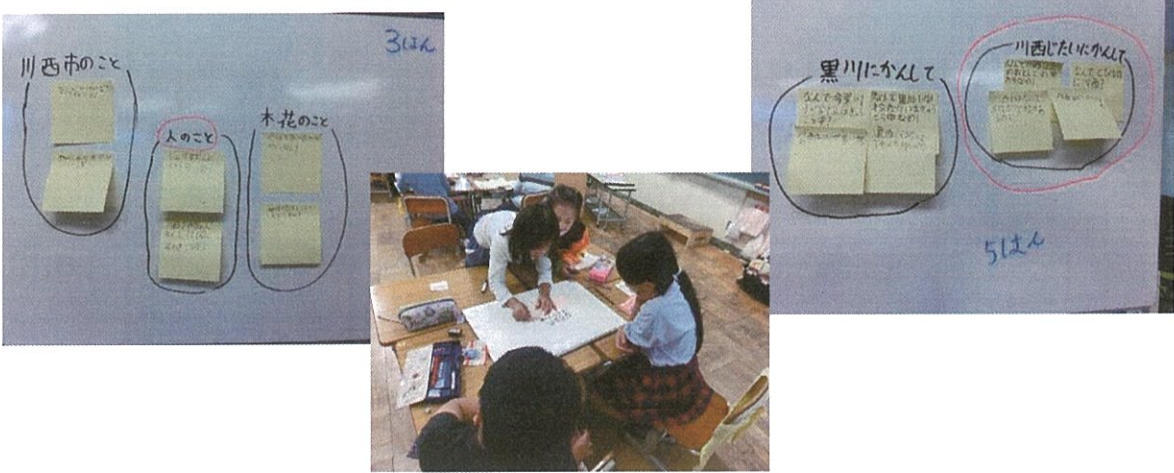


兵庫県川西市立緑台小学校

(様式 4-2 : 令和 2 年度 モビリティ・マネジメント教育 (交通環境学習) にかかわる学校支援制度
実施結果報告書)

実施結果報告書

1. 学習名称： ふるさと川西 PR 隊					
2. テーマ： 住んでいる川西市について 知ろう、学ぼう、まとめよう！！					
3. 実施教科： 社会 ・ 総合					
4. 関連単元： 「わたしたちのまち みんなのまち」「市のうつりかわり」(社会) 「環境体験学習 溪のさくら」「ふるさと川西 PR 隊」(総合)					
5. 実施単元数： 15 時間					
6. 学年	3	7. クラス数	2	8. 生徒数	40 名
9. 実施内容					
<p>・学校のまわりについて、新型コロナウイルスのため、校区探検をすることができなかつたため、児童の記憶を頼りに校区地図を作成していく。学校の屋上から校区を見渡し、付け加えを行ったり、方位や地図記号について学ぶ。その後、学んだ知識をもとに、地図等の資料を見ながら市の様子について学習する。地図やグーグルマップの映像から、市の地形が南北に長いことや高低差があることを抑える。校外学習が可能となった期間に、市北部にある川西市郷土館へ貸し切りバスで校外学習へ行った際、バスでの移動中、各場所の地形や土地利用について説明をしながら市内を巡った。車窓から眺めただけではあるが、そこで高低差を感じることができ、徒歩や自転車での移動が大変な地区があること、黒川地区などは自動車がないと移動が難しい地域であることを知った。</p>					
					

・川西市を南北に流れる猪名川沿いで、エドヒガン桜を守る活動が行われている。新型コロナウイルスの影響で、活動期間が限定されてしまったが、夏の終わりと初秋、そして春先に活動地（溪のサクラ）へ行き、地域の方とともに活動を行った。持続可能で生物多様な自然環境を守るために、ササ刈を行ったり、刈られた竹を使って水鉄砲を作成したりした。また、溪散策を行う中で、昔里山であった名残である炭窯を見たり、溪の動植物に出会ったり、猪名川で遊んだりしながら生物多様な溪を満喫した。体全体で溪の自然を感じる中で、自分たちが大人になっても残しておきたいふるさとの風景としての愛着を感じる児童も多くいた。



・川西市を南北に横断する公共交通機関として能勢電鉄がある。今年度、新型コロナウイルスの影響で、実際に乗車することはできなかったが、総合でSDGsについて学習する中で、「11.住み続けられるまちづくり」を実現するために能勢電鉄や阪急バスという公共交通機関の大切さについて考えた。

グリーンハイツが高齢化していることは、溪のサクラで活動する地域の方が高齢であることから肌で感じていた。また、社会科の「昔の暮らし」と絡めながら、校区（グリーンハイツ）の昔の姿、ニュータウンとしてつくられた歴史について学習した。その際、30年余の期間に多くの家が建てられ、5千を超える多くの同世代の世帯が同時期に引っ越してきたことを確認した。ではニュータウンとしてグリーンハイツが誕生し50年以上経った現在のグリーンハイツの人の年齢は…と思考を巡らせることにより、現在の状況を知ることとなった。実際5年前に近くの小学校と統合する計画が出たことから少子高齢化していることを再認識させ、高齢者に優しい地域、住みよい地域、そして将来自分たちが帰ってきたいと思える地域にするためには、何が必要なのか、自分たちに何ができるのかについて考えた。

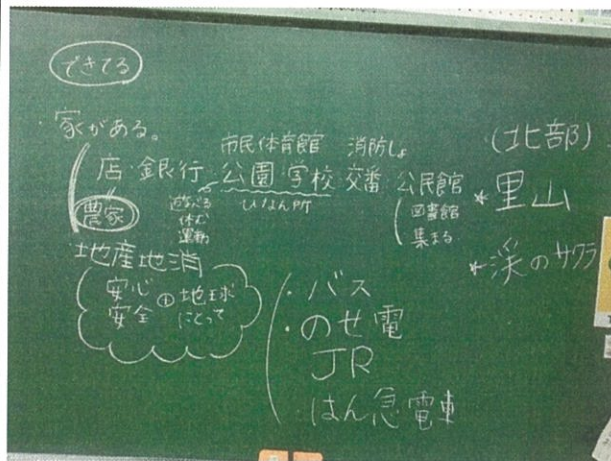
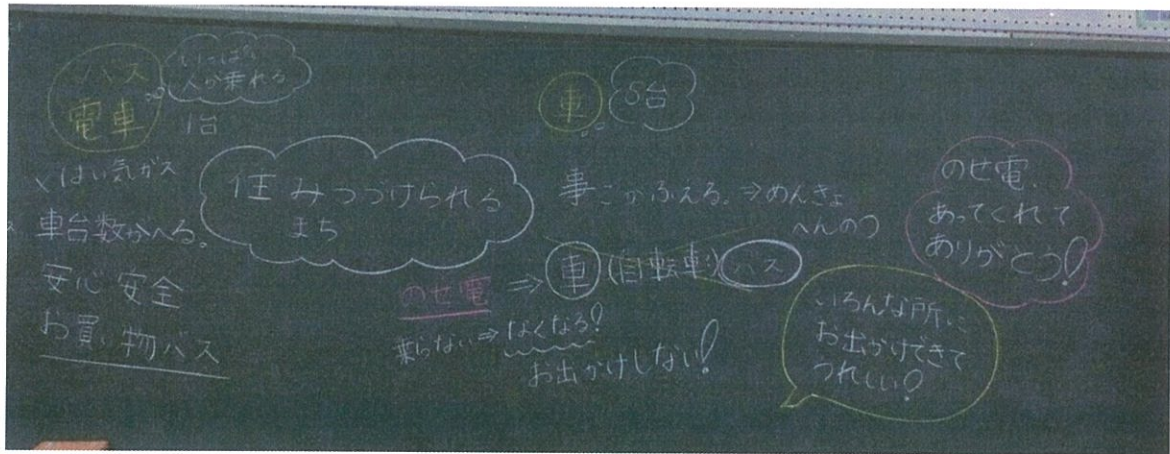
公共交通機関（能勢電車・阪急バス）と自家用車との違い、双方のメリット・デメリットを出し合う中で、CO₂排出量に違いがあることに気づき、乗り合いをすることにより渋滞が減ること、CO₂排出量が減ることを確認した。また、黒川地区など、お出かけに乗り物が必要な地域にとって能勢電車や阪急バスは必要不可欠であることや、乗る人の減少により廃線することもあることを知らせた。また、子どもからお年寄りまで、どんな人でも運転を気にすることなく乗ることができる点を押さえ、どの地区に住む人にとっても便利なものであることを確認した。川西市には南北に大きな道路が通っていることも地図で確認することで、川西市の交通まちづくりを学んでいった。

また、地域には高齢化に対応するためお出かけ支援として自治会が中心となり、バス通りから離れた場所に住む方の家から、近くのスーパーへの送迎事業を行っていることも知り、毎朝登下校を見守りしてくれている地域の方が中心となり支えあって生活している地域であることにも触れた。その支えあいの中にいつか自分も入って、誰かの役に立てる人になりたいと発表する児童もいた。



SDGsに関しては、新型コロナウイルス感染症の影響で外部講師を計画的に招聘できなかったことから、阪急阪神ホールディングス株式会社のHPから『ゆめ・まちSDGsドリルをダウンロードさせていただき学習を深めた。「13.気候変動に具体的な対策を」「14.海の豊かさを守ろう」「15.陸の豊かさを守ろう」に関して、溪

での活動をふり返り溪の整備を手伝うことや溪のクリーンアップ大作戦に参加することで陸や海守ったり、溪の森林を守ることが地球環境を守ることにつながったりしていることにも触れた。



10. 学習のながれ：

校区（グリーンハイツ地区）を学習した後、市全体の学習を行った。その後、自然の大切さについて道徳などでも学習を重ねながら、溪のサクラでの環境体験学習を行った。同時にSDGsについての学習を並行して行うことで、地球環境のために自分たちができることとして溪での活動を意識させた。そうすることで、地域での自分たちの活動が地球全体につながっていること、自分たちが大人になった未来へつながっていることへ意識を向けやすくなった。これにより、今はただ「自分が住んでいるまち、川西」が、将来「ふるさと、川西」になっていくイメージを持てたようである。

坂が多い地域に住んでいることもあり、短い距離でも自家用車での移動をする家庭が多い。市内中心部へ行く際も、実際は電車やバスよりも自家用車を使うと答えた児童が多かった。これは、能勢電車や阪急バスの運賃が高いことも一要因として考えられる。実際児童に公共交通機関のデメリットを問うと、多くの児童が「お金がかかる」と述べた。そこで、「自家用車もガソリン代がかかるよ。」という話から、CO₂排出量に目を向けさせ、より地球環境に優しい移動手段とは何かという意識で学習を進めた。そうすることで、森林がCO₂を酸素に変える役割を果たしているという発言をする児童が現れ、溪での児童の活動につなげていった。

また、今年度は校外学習へ行ったり外部講師を招聘したりすることが難しかったため、上記の様々な学習をまとめるために、グリーンハイツの歴史について学習した。自分たちが住む地域はもともと山であったところを切り崩して作られたまちであること、現在少子高齢化が進んでいることから、交通まちづくりの大切さに触れていった。

学習のまとめでは、1年を通して学習したことをポスターの形にまとめた。グループごとに役わり分担し、溪のサクラの歴史や動植物、溪のサクラに咲くエドヒガンについて、グリーンハイツの歴史や、郷土資料館、市の特産物であるいちじくや、公共交通機関について記事を書いた。持続可能なまちづくりを中心に据えたまとめとしてポスターを作成し、一人でも多くの人に伝えていくために、学習の際にお世話になった溪の方や各家庭に配布、また校内で披露した。

※学習で使用した教材やワークシート、学習風景を撮影したビデオや写真、指導計画書などを添付して提出してください。